

# そろそろ時代は「はだし」の出番

〜森とつながる「はだしのトレイル」から見えたこと〜

岐阜県立森林文化アカデミー 教授 ● 萩原・ナバ・裕作

「Morino de van (森の出番)」に、移動型はだしのトレイルを積み込み、東京赤坂TBS前で開催されたイベントに出席しました。するとどうでしょう、子どもたちは、この感覚に飢えていたかのよう、何度も歩き回り足裏の感触を楽しみ続けていたのです。

この活動を続けて5年、県内外での「はだしのトレイル」が教育現場や公園、イベントなどで少しずつ広まっているようです。実は、世界でもドイツから始まりヨーロッパ各地、ロシア、韓国など世界中に広まっています。かつて原野や森をはだして歩いてきた私たち人類の記憶が、あの感覚をもう一度取り戻そうとしているのかもしれない。

バーチャルな世界が発展していくこれからの時代、私たちは生き物としてのバランスを保つためにも、五感でリアルに感じる体験を意識的に取り入れていく必要があります。ホモサピエンスが生まれた森の空間や里山は、そのための最高の空間であることは間違いないでしょう。そうそう、これは余談ですが、「はだし」ではなく「はだかのトレイル」も10年近く前から真剣に構想しています。興味のある方、新たなテーマパークを計画の中の方、ご連絡お待ちしております。

2014年、ドイツ・ロッテンブルク大学との連携協定締結以来、森林文化アカデミーの森林環境教育専攻では、シンプジウム、留学生の受け入れ、共同研究、視察研修など数々の事業を積極的に展開してきました。また2020年にはドイツの森林教育施設を参考に日本初の森林総合教育センター「MORINOS (モリノス)」が学内に誕生しました。そしてこの連携協定で初訪独した際、私は「はだしのトレイル」に出会ってしまったのです。



ドイツの「はだしのトレイル」

はだしのトレイルとは、土、泥、石、木、水など様々な素材を足裏で感じながら歩くことができるトレイルで、ドイツでは郊外の森や公園でよく見かけます。気軽に歩けるよう、脱いだ靴を入れるコインロッカーや、足洗い場が整備されていたり、足湯やロッキングチェアなどリラクースできる仕掛けがあったり、はだ

して歩きながら楽しめるアートや写真、自然解説が展示されているトレイルもあります。全長2〜3kmにも及ぶはだしのトレイルを、家族や友人とおしゃべりしながらゆっくりと楽しむドイツの人々の姿が印象的でした。



トレイルにはいろいろな足裏の感触が待っている(ラトビアにて)

「日本にも広めたい！」帰国後、当時企画中だったMORINOS (モリノス) の構想に早速盛り込みました。その後、清水建設株式会社との連携協定で「はだしの広場」を整備していただくことになり、そこからつながる森の中の「はだしのトレイル」を、ドイツのように専門の業者が作るのではなく、あえて「県民参加型」で作ることにしたのです。

「はだし」「健康」というキーワードで集まった県民が毎月集まり、森を観察しながら、どこにトレイルをつけるか、どうしたら森へのインパクトを最小限に抑



県民と一緒にはだしの森をつくる

そんな「はだしのトレイル」を都会の人にも体験してもらいたい!と思っ、住友林業株式会社との連携協定で提供していただいた森の体験出前カ-



morino de vanによる「はだしのトレイル」@赤坂



\*「はだしの森」に興味のある方、「morinosチャンネル」の「はだしの森」プロジェクトの動画集をお楽しみください。